



No.22

# げんきカエル



## こども病院ニュースレター

### 「姿なきを視て、声なきを聴く」 の気持ちで

病院長 丸尾 猛



平成20年4月1日付けで中村 肇前院長の後任として兵庫県立こども病院長に就任いたしました。本年3月末に神戸大学大学院医学系研究科産科婦人科学教授を退任しての就任であります。少産少子化が進む一方で産婦人科医師不足による産科閉鎖病院が続出し、「お産難民」が社会問題化している今、こども病院への期待と役割は大きさを増しており、職員の重さに身の引きしまる思いです。

兵庫県立こども病院は、昭和45年に県政100周年記念事業として国立小児病院に次ぐ全国2番目の小児総合病院として開設され、平成6年には周産期医療センターが開設され、平成12年には兵庫県の総合周産期母子医療センターに指定され、平成19年には小児救急医療センターが開設されて、名実ともに「ハイリスク胎児とこども達を守る岩」として機能しています。

こども病院で診療の対象となる小さなこども達は大人のように大きな声を出して訴えることができませんし、まして子宮内にいる胎児は姿さえ視ることができません。そのため当院では、「姿なきを視て、声なきを聴く」の気持ちを基本姿勢に、ほほ笑みとこどもの視線での語りかけを大切にしたいとチーム医療を、職員一体となって実践したいと考えています。

病院は診療部、看護部、各種検査部、事務管理部の

多数の職員からなる大きな生きものである、病院が機能する

上で最も大切なのは「心」だと思います。病院の運命は職員一人ひとりの「心」しだいで大きく左右されます。職員一人ひとりが新しい生命の誕生と将来を担うこども達の命に関わる仕事に従事していることを自覚し、常に次元の高い危機感を持って、自分に求められているものは何かを認識し、病院内での役割とポジションを見極め、医療者・患者間の情報を共有しあって、透明性の高い病院にしたいと考えています。

こども病院は「ハイリスク胎児とこども達を守る岩」とであるとの考えのもと、兵庫県病院局との連携のもとに職員の英知を結集し、患者さんに信頼され満足される病院であると同時に職員も満足できる病院となるよう、全力を尽くす所存です。そして、38年の伝統を有し全国的にもその業績が高く評価されている兵庫県立こども病院のさらなる発展に向けて、職員の皆様と共に努力したいと思います。手狭な本館の建て替えも平成30年までの県立病院建て替え整備計画に正式に組み込まれました。財政的に厳しい折から、大きな夢の実現には、職員の皆様のお力ご協力が不可欠です。どうぞよろしくお願い致します。

## 適温配膳車による適温給食を開始しました

栄養指導課長 尾崎 孝秋

温かい料理は温かいまま、冷たい料理は冷たいまま、患者様へおいしい料理をおいしくお届けできるよう適温配膳車による適温給食を5月12日から開始しました。

この適温配膳車には、保温庫、保冷庫があり、それぞれ設定温度は、保温側で60℃～80℃に、保冷側で5℃～10℃に設定可能となっています。現在、周産期医療センターには40膳用の自走式パワーアシスト機能を装備したもの(ロイヤルタイプ)が1台、本館各階には24膳用の稼働手動式のもの(ダムウェータタイプ)が7台、また、小児救急医療センターについては、平成19年10月の小児救急診療開始にあわせて16膳用の自走式パワーアシスト機能を装備したもの(スタンダードタイプ)が1台、合計9台が導入されています。

適温給食の完全実施を本格的に開始して約2ヶ月になりますが、アンケート方式による入院患者様から

の生の声の聞き取り調査を7月から11月にかけて実施してまいります。

いただきましたご意見、ご要望の中で実施可能なものについては、すみやかに食事提供に反映させていただきます。安全・安心の食事提供に努めてまいります。



ロイヤルタイプ

ダムウェータタイプ

## 小児救急医療センター紹介

看護部 ●



小児救急医療センター



小児二次救命処置法勉強会

当センターは小児三次救急医療を担う「県下小児救急医療体制の最後の砦」として、昨年10月にオープンしました。内科系・外科系の危急疾患はもとより、熱傷や中毒などの事故、交通外傷などすべての小児三次救急医療に対応する全国でも少ない施設です。

建物は二階の救急外来部門(初療室1室、診察室3室、観察室4床)と三階の病棟

部門(PICU4床、救急一般病床6床)で構成され、看護部は40名です。

救急外来、特に重症初療ではチームアプローチが重要であり、毎月2回、医師・看護部合同の勉強会やシミュ

レーショントレーニングを実施しています。

病棟部門のうち、PICU(小児集中治療室)は、緊急手術、人工呼吸管理、脳低温療法、透析など高度な医療を必要とする患者さまを、救急一般病床は、PICUから移動する患者さまや緊急入院する患者さまを受け入れています。状態が落ち着けば一般病棟へ転床することもあります。

センターが開設して9ヶ月、全員で協力してよりよい小児救急医療・看護を目指しています。



初療室



# 血液腫瘍科の紹介

川崎 圭一郎

## 特徴

子ども達がかかる病気の中で血液腫瘍性疾患は決して頻度の高いものではないですが、重篤なものも多く、またその治療には専門的な知識や技術、設備などが必要になってきます。血液腫瘍科は小阪部長以下、専任のスタッフ4名、専攻医3~4名でこれらの疾患の子ども達の診療に当たっています。入院治療は同僚看護長以下、血液腫瘍性疾患の病児の看護に習熟した看護スタッフおよび保育士を有する血液主体病棟で行います。また別にHCU内に無菌室2床を有し、重症例に対しては骨髄移植等の造血細胞移植も積極的に行っています。外来は週3回で、火・金は小阪部長が、月は隔週で長谷川・竹田・川崎の各医長が担当

しています。

部長の小阪はJPLSG(小児白血病リンパ腫研究会)の理事やJNBSG(日本神経芽腫研究会)の運営委員を務めています。白血病、脳腫瘍や神経芽腫等といった腫瘍性疾患はもとより、再生不良性貧血などの非腫瘍性疾患を含む、ほとんどの小児血液腫瘍疾患で多施設共同研究の成果に基づいた全国共通治療プロトコルで治療を行なっています。



## 診療実績

(平成19年度) : 新患総数…163名 造血細胞移植…12件

## 病棟案内



当科では診断・治療の一環として骨髄穿刺(マルク)・髄腔内注射(髄注)など痛みを伴う処置をしばしば行ないます。この処置の苦痛・不安を軽減するために、病棟にて麻酔科の全面的な協力の下、閉鎖循環式全身麻酔(セボフルレンを用いた吸入麻酔)による疼痛管理を積極的に実施しています。



血液主体病棟専任の保育士による保育



平成17年12月から隔週でクリニックラウン(臨床道化師)が来棟。子ども達の闘病生活を応援してくれています!

血液病棟では長期間の入院を余儀なくされる児も多く、このような除痛やアメニティ向上への取り組みは患者さんの入院中の生活の質向上に大いに役立っています。



## 地域医療連携室に看護師が 配置されました。

指導相談・地域医療連携部長 池尻操子  
平成20年4月から、前方連携を強化するため、各県  
立病院の地域医療連携室に看護師が配置されました。

当院でも看護師2名が配置され、慢性期で人工呼吸  
管理の必要な患者さんの在宅移行への支援を始めた  
ところ です。

地域医療連携室は、前方支援として平成16年から、  
紹介患者さまの受診予約と医師会や地域の医療機関  
への広報活動等を行って来ました。地域医療連携室で



地域医療連携室でお待ちしております



ヘッドホンで対応中

は、電話対応で相手の顔が見えず、ご家族がご心配な  
状況での対応が多いため落ちついて、声のトーンにも  
十分配慮して、正確にお話を聞き取り、わかりやすく  
正確に説明するように努めています。

看護師が配置されたことを踏まえ、今後は後方連  
携を強化していきます。高度医療を必要とする患者  
さまやご家族が安心して安全に在宅療育へ移行でき  
るよう、医師・看護師・指導相談室の専門職スタッフ(医  
師・保健師・精神保健福祉相談員・心理士・MSW)との  
連携はもとより、訪問看護ステーション等との連携を  
図りながら、ご家族への支援をしていきます。今後と  
もどうぞよろしくお願いたします。



## Concept

コンセプト

### 基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、  
高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子ど  
もたちの健やかな成長を目指します。



### 基本方針

- 1.子どもの権利を重視した医療の実践
- 2.安心と信頼の医療の遂行
- 3.専門的な高度医療の推進
- 4.地域医療・保健・福祉機関との連携
- 5.親と子の健康啓発活動への貢献
- 6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成

「げんきカエル」で取り上げてほしいテーマがありましたら、食堂前廊下の掲示板にあるテーマ応募箱へぜひお寄せください。

## 編集後記

新しい編集委員でのげんきカエル22号が誕生しました。  
皆様のお手元に届く時は、暑さも去り、少し秋風を感じ  
られるのではと考えています。また、「げんきカエル」が  
来院されるお子様やご家族の方のお役にたてれば幸いです。  
編集にあたり御協力いただいた皆様には感謝いたし  
ます。

編集委員長：池尻 操子  
編集委員：田中亮二郎 榎垣美香子 藤中 早代  
中西亜希子 大中 清文 久布白 歩  
長尾 洋 高橋 正晴 白根結聖奈  
野口 浩子 谷本江利子 野呂あけみ

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



## 兵庫県立こども病院

周産期医療センター 小児救急医療センター

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1  
TEL 078-732-6961  
FAX 078-735-0910 (総務課)  
FAX 078-732-6960 (地域医療連携室)  
URL: <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>  
E-MAIL: [info\\_kch@hp.pref.hyogo.jp](mailto:info_kch@hp.pref.hyogo.jp)